

み・らいす
ME-RISE



ME-RISE
PARK

子ども第三の居場所

活動報告

2024年度

居場所が必要なこどもたち

み・らいず2が運営する居場所はさまざまな課題を抱えたこどもたちに必要とされています。

要支援児童

(精神保健福祉手帳、療育手帳、福祉サービス受給者証所持)

87%

生活困窮世帯

53%

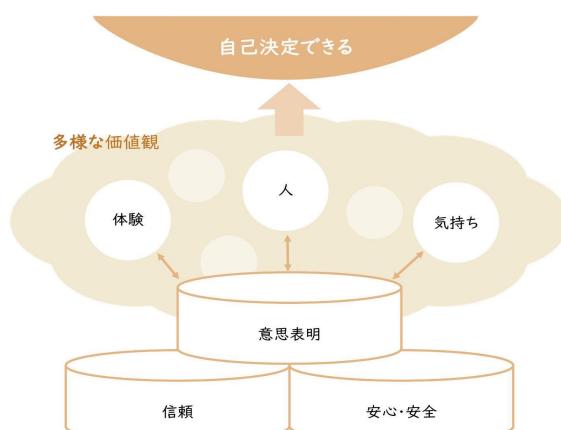
ひとり親世帯

63%

どんなこどもにも、学びや育ちの機会が必要です。

み・らいず2の居場所では、孤立しがちな家庭や子どもたちが次のどこかにつながるはじめの一歩の場所となるよう子ども達と関わっています。

まずは安心、安全を感じられる場所で、人を頼ってもいい、信頼しても大丈夫という気持ちを持ち、困ったときにだれかを頼りつつ、豊かな体験と「自分で決める」経験を積み重ねられるよう日々支援を行っています。



子ども自身が決めるために必要なこと

複雑な家庭環境で育つ子ども達や、自身の特性からうまく他者と関わることが苦手だと感じている子ども達と関わる中で、子ども自身がどうしたいのか、何をしたいのか、何をしたくないのかを理解して、自分自身で決めるためには、ベースとなる「自分を大切にすること」ができるかどうか、そのための環境があるかどうかが重要だということがわかったしました。

まず、自分の気持ちや思いを自分自身が大切にできるよう気持ちを受け止めてくれ、小さなことでもあなたはどうしたいのかと聞いてもらえる環境があること。

さらに、「こんなことやってみたい」を受け入れてもらえる環境があり、様々な経験を重ねる中で、自分自身の好き・嫌い・得意・不得意などを知っていくことができていくことで、ちょっとしたことや将来に関することなどを、自分で決めていくことができるようになります。

子どもが決める

ふりかえる

子どもの“やりたい”を尊重する

体験・経験を積み重ねる

自分を大切にする

相手を大切にする

子どもの声を聴く

さまざまな価値観や文化に触れる

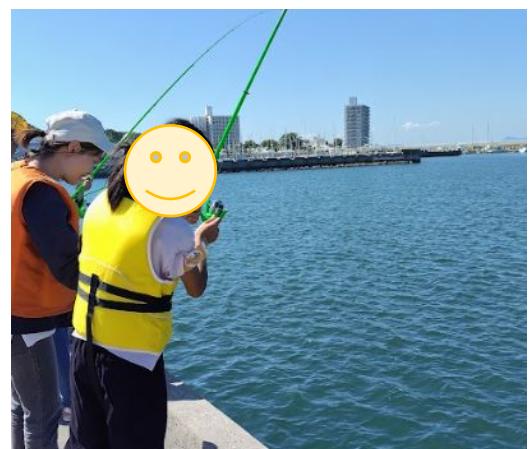
こども自身が自分で決められるようになるためには、
決めるための材料が必要です。

そこで、いろんな経験のある大人と出会ったり、文化的な体験の機会や、居場所の人(大人もこどもも)との気持ちのやり取りの機会をつくりました。

陶芸体験



釣り体験



手持ち花火



キャンプ



お祭りでの屋台出店



クリスマス会



実際に関わる中での変化

はじめ

保護者



- ・小学生のお子さん、母と本人の二人で生活されている
- ・学校ではお友達とトラブルをおこしてしまう
- ・感情のコントロールが苦手

家で何度も注意して
るんですけど、
できなくて。

【親御さんも

- ・悩んでいる・困っている・怒っている
- ・イライラして子どもにもあたってしまうが、
親御さん自身が、そのしんどさを誰にもわかつてもられない
と思っておられる。
- ・お母さんができないからと、注意されるんじやないか
と不安に感じておられる。

スタッフと親御さん、その子とのやり取り

- ・お子さんの素敵な姿、
できたこともたくさん伝える。
- ・学校や家での様子を聞き、一緒に考
えさせてほしいことを伝える。



- ・一緒に楽しむ
- ・トラブルになったときに
何を感じていたのか、どうした
かったのかを、時間をかけて聞
く。



お話を聞き続けていく中で



よくないと思いなが
らも、強く怒って
しまうんです

【不安もあるけど、安心も出てくる】

- ・子どもとはまだうまくいかないこともあるけど、
子どもへの伝え方を知ることができた
- ・相談してみてもいいかも
- ・自分ができないことも、聞いてくれる

さらに関係が出てくると



学校とのやりとりに
悩んでいて、間に
入ってくれませんか？



【信頼できる】

- ・自分一人で抱えなくともいい
- ・困ったことを相談したら解決できるのかも
しれない
- ・自分の思いを伝えてほしい

- ・「今日〇〇して遊んだんだんやね」と親子の会話が始まる
- ・家でも話を聞いてもらえるようになり、
学校で困っていることを大人に伝えることができた
- ・こんなことやってみたかったと、居場所スタッフだけでなく、親子でも話
せるようになった